

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報について(送付)
このことについて、発生予察特殊報第1号を発表しましたので送付します。

特 殊 報

令和4年度(2022年度)発生予察特殊報第1号
令和4年(2022年)12月13日
熊本県病害虫防除所長

- 1 病害虫名 モモヒメヨコバイ
- 2 学 名 *Singapora shinshana* (Matsumura)
- 3 発生作物 モモ、スモモ、ウメ

4 発生確認の経過

令和4年(2022年)8月、県内の庭木のモモの葉で白化症状がみられ、被害葉には多数のヨコバイ類の寄生が確認された。その後、9月に同様の症状が他地域の庭木のスモモおよびウメにおいても確認された。これらから寄生しているヨコバイ類を採集し、果樹研究所で確認したところ、県内での発生が未確認であったモモヒメヨコバイであることが疑われたため、農林水産省門司植物防疫所に同定を依頼した。その結果、モモヒメヨコバイであることが判明した。

5 国内外の発生状況

国外では中国、台湾、韓国、北朝鮮での分布が確認されている。
国内では、沖縄県での分布が知られていたが、令和元年に和歌山県で確認されて以降、本州、四国、九州の計20都府県で発生が報告されている。

6 形態及び生態等の特徴

(1) 形態

成虫の体色は概ね黄緑色で、体長は3.0~3.5mm(図1)。若齢幼虫の体色は薄い黄色で、終齢幼虫になるにつれて成虫と同じ黄緑色になる。複眼は黒色で頭頂部に黒点を有する(図2)。

(2) 生態

国内での詳細な生態は明らかになっていないが、モモ、スモモ、ウメ、アンズ、オウトウ等バラ科果樹を加害することが確認されている。また、海外ではサンザシ、ポポー、ポプラ等への加害も報告されている。

(3) 被害

成虫、幼虫ともに葉を吸汁加害する。吸汁された部分は小さな点の形で脱色し、葉全体を吸汁されると白化症状となる(図3)。また、激しく加害されると早期落葉を引き起こす。被害葉の葉裏には多くの脱皮殻が付着している場合がある。

7 防除対策

- (1) 本種の発生及び被害の早期発見に努める。被害葉が認められた場合は速やかに除去し、適切に処分する。
- (2) 小粒核果類(スモモ、ウメ、アンズ)においてはモモヒメヨコバイの登録がある農薬を用いて防除を行う。



図1 モモの葉に寄生するモモヒメヨコバイ成虫



図2 モモヒメヨコバイ成虫の頭頂部の黒点



図3 ウメにおけるモモヒメヨコバイの吸汁加害による葉の白化症状

熊本県病虫害防除所
(農業研究センター 生産環境研究所内)
担当：岡島、福岡
TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493